



誹 諧
 都鄙歳旦
 大三物
 次第
 不同
 諸國引付

5
 6706
 2





5
06706
2



享保四巳亥歳旦

尾陽名護屋

未流下

巴靜

暑衣ちりぢきの一里と繪と
人毛

上陽

桃里

徳若小御一カ歳未くのみう

もつめ 古文と福葉果のり 朝山

貫えの一首は柳のそりて 榎栳

九月風卜

<2015-14>



其二

樓楮

君々春の夜も涼えて草花

松の一夜の餅ハ幾白 桃里

借りて着心茶摘みはる 朝山

其三

朝山

衣袖の袖は休りし 子豆

あつらひも是 標の想 樓楮

前髪ハ指荷はる 桃里

東君

一字

春多のや夕部の煤を玉帚

石母意はるを想み 雀詞

肝乃凍の解はる路して 是輔

二

是輔

松竹のそ名くは也門傍

懐的はれ 子壽 一カ案 和虎

弱多の行過牛乃玉新小 雀詞

三

招虎人 雀詞

鏡餅小豆水雲を短ふり

以方乃旅人先 松角

わけ帯る漢名の檜乃花の 和虎

世ふ

四

朝比屋

紫豆荅

比方拜 笑尔や山の立鷹帽子

産む田畑を九九の町割 是輔

柳塘小錦繡 及也啼あし 松角

五

龍園
魯松角

かみちの女小集 活して帳開

聲年一 百ちりり八雲 小の家 雀詞

兼苗 沢分 彭祖 傳あて 一字

青陽

俊

悪とつ 訓ありや
去ら ずけ 行きて

雪狐

改る年あつたまる ありけりぬ

鶏旦

卧龍研

今白

明て春あつた時小ハ笠やをり

ちりり 我山小盛く蓬菜 一湖

合息く始未ろ 花不風も写し 巴静

智

曉梧

水銀小まふ心鏡やそめの春

十二ひし人を 路の去りやめ 飛水

鶯の毎朝来と 死出く 可静

仁

可静

田作ろ 冥加や君ろ 朝餉

八例 シニ ぬ去小 香を配る 梅 曉梧

蝶 シニ け旅ハ 障子の 邪 シニ 飛水

勇 飛水

一年 鞭や柳の初日歌

唐ハおより 江戸の正月 可辭

百子鳥銃樂射御也 曉梧

三朝 持識二斗を以て 釋 飛水

古盤ある佛多二 蘇の春

柳の初日枝を二 仙炉

二乃汁ハ 残二の雪乃才二 而水

二 釋 而水

枕とまゐい二の所二 而水

中々 煉く七種二 飛水

派也侍大工本枕の仕合二 仙炉

三 仙炉

梅小あり一時千金の笑二 而水

ちや 野老二 而水

鶉の聲二 飛水

元旦 應言亭 杵鳴

名子二 其樂

人間事二 其樂

東風を筆子二 遠旨

又 一霞堂 遠旨

元氣や省ハ二 杵鳴

年二 其樂

赤烏帽子着二 其樂

シ

亦

伊中齊 其樂

廣く可^{ウニシ}愛^{タイコ}大^{タイコ}古^{タイコ}の^{タイコ}顔^{タイコ}日^{タイコ}影^{タイコ}

子の字を^ハか^ハは^ハす^ハふ^ハ扇^ハ蕪^ハの^ハ順^ハ盃^ハ 遠^ハ旨^ハ
梅^ハ待^ハッ^ハ見^ハド^ハの^ハ人^ハや^ハ梅^ハ 杵^ハ鳴^ハ

元朝

楓橋

むづの^ハ舞^ハ去^ハし^ハ斗^ハの^ハ名^ハを^ハ出^ハり

後^ハの^ハも^ハ走^ハり^ハ去^ハる^ハ日^ハ 暗^ハ吟^ハ

嘉^ハ例^ハ也^ハも^ハ綿^ハを^ハ着^ハる^ハ雛^ハ也^ハ 全^ハ

又

暗吟

先^ハの^ハ一^ハ輪^ハむ^ハら^ハの^ハ筆^ハ始^ハ

雀^ハさ^ハえ^ハほ^ハる^ハし^ハ乃^ハ發^ハ明^ハ 楓^ハ橋^ハ

鹿^ハく^ハら^ハ門^ハ出^ハ酒^ハ小^ハ日^ハの^ハ多^ハけ^ハて 全^ハ

青陽

和裏

若^ハ水^ハ不^ハ去^ハし^ハ年^ハの^ハ故^ハを^ハお^ハり^ハり^ハり^ハ

山^ハを^ハあ^ハり^ハり^ハ依^ハ係^ハ娘^ハの^ハ袖^ハ 柳^ハ之^ハ

揚^ハ雲^ハ雀^ハい^ハり^ハる^ハ糸^ハや^ハ洗^ハま^ハね^ハん 和^ハ裏^ハ

又

柳之

月^ハの^ハ出^ハり^ハる^ハ雲^ハの^ハ化^ハ粧^ハ也^ハ矣^ハ初^ハ

下^ハり^ハる^ハ走^ハり^ハる^ハ風^ハの^ハ阿^ハ堵^ハ 和^ハ裏^ハ

草^ハも^ハ木^ハも^ハ若^ハり^ハ余^ハ慶^ハに^ハ花^ハを^ハ 柳^ハ之^ハ

元朝

樂州樂名

素六

や^ハ鳥^ハさ^ハし^ハく^ハ空^ハの^ハつ^ハら^ハ内^ハの^ハ春^ハさ^ハや

な^ハる^ハ膳^ハに^ハ確^ハる^ハ田^ハ代^ハ 松^ハ角^ハ

加^ハ増^ハ地^ハ也^ハ二^ハ月^ハも^ハ咲^ハ山^ハあり^ハて 豆^ハ花^ハ

上日

白梨亭
灰餅

君臣有禮宮墻外

庭竹鞠躬對早楸

擊節其棠霏聖化

傳方玉函鑑靈臺

雪消半面山新英

日上輪風緩推

萬物何言塔資始

龍門孰接李膺盃

千種貝

蓬萊也子侍の東城子鏡貝 祖月

とくぬ貝

初鷄の尻小舟はく雀貝 紅利葉

真主黃貝

あし玉や日日かてまは黄貝 固允

磯貝

あし玉や蒼磯貝の浪乃鏡 松角

みこ貝

くみ倉立や田舎毛林貝 雀詞

板屋貝

のぞの秋形さく板屋貝 豆花

鳥貝も和歌吹上乃目の知

巴

六

寸入具

初夢 夢いけりてせんすれ具 今言
たぬくら具

今もはのきし斗合とぬふりり 一寸

善具

初夢を善くする目乃花具や 花餅

歳旦二節引附

え雛の花き上下小咲ふも季 里童改 里鶴

春よりや去し年れ茶入の又古し 朧枕

裏白乃表のどろい今初の春 先耳

本免乃既中も袖ふは慶の 一水

母乃衣を憐むハ海より深
衣孝の珠寸ハ他人ニ云ト

母のき小風や返りて玉衣始 晴吟

え雛や上下玉小粒立舞坊 桐橋

田作や先鱈ののるし平男 笑言

脊くく魚とともや得方の鱈子魚 ふ田共 十有

搦粉木々一ふ笑そそりまくれ 執此

搦ちせく冬ハ何地ハ鏡餅 不出

君水みさやい出するて古桶也 少門十才 免口

柏木小庵

鶴靴をりて称宜と字も春の春 端歌

山 鹿ん し物目の
明な事と

徳ふ入は門小白あり鏡餅 アツタ 老容

帆をらのもくまんとし年ハぬみう 意仲
 洗濯ハありてぬの長 甲子
 侍勢海老のつくり口福の非垢 聖丸
 つくり竹杖の足まや 欲ハみ 化者
 いうは、お秤を市のりちち 二竹
 かすまこく子竹のあうや初日 諸康

歳暮

皓月おて暮盤の上ふ年ぬぬ 飛水
 けし手や清くしてわたり市の梅 晴吟
 恩をまほ法竹の皺穿衣配 曉梧
 うす手と流すにまあ 年ハ信 執此

除夜

性起ハを好んで世もに
 晴寸ハ何をや

年の尾や鬼を向けし 柱の輪 其樂

親ハ子やうちハ一の
 程おろしてあつの池さる事を
 老母のいひて

見えぬやや小松をびる年の礼 甲子
 下も盤お指の往来や斗の華 遠旨
 もらふのひりしておみえてふ 料嶋
 いらふでん好しを付さるる意仲
 籠天のや十分五しや一の彼 端歌
 春や隣し斗の家趣と一 老客
 守し斗浦島太郎 百六つ 而水
 乾舞よ増賀ハ寄て斗の辰 仙炒

冬別古呂毛

歳旦

古人月夜のあはれと
白子習してあはれと

尹之

天の戸の牡丹の朝の

鶯の聲を尋て万歳 端月

和虎山のけの福習り 花月

二

鯛の勢いや人の初日敷

花月

いづかぬを子星鳥 梅子

まこと名の草とま 端月

三

珊瑚珠を産むと讀む傍き

端月

下戸の扇蕨の舌靴の 花月

むつかりと心の花を柳の 梅子

廿四番花懐之普 鳥居氏 花幸

面白や、難者あふふあふもも柳の花

音子 義輪

さうハハ房房をを屋屋 基所 口

山山本本のの雲雲雀雀がが耳耳ふふ付付てて 天天 羅傘

清女納言
あつたに耳ふ多し地はさか
あつたに耳ふ多し地はさか 羅傘

七種七種也也事事九九とといいふふ名名のの女女官官達達 若幸

柳柳ももふふいい笑笑しし顔顔 若幸

白白ままとといいふふ日日ハハ鶴鶴ののううねね 義輪

白馬はわをるとうま
赤と黒とリセは 義輪

屠屠藪藪のの面面ああねねやや白白馬馬のの大大男男 羅傘

ふふ穀穀かかささ糸糸のの氷氷解解行行 羅傘

おおやや乃乃春春ままららううののここににああけけてて 花幸

象目

田田化化かか糸糸のの多多れれぬぬ教教也也 神馬神馬藻藻 以以寛寛

三三つつ他他くく長長地地のの春春ややううとといい死死 閑志

象暮

新恒家集
思ふもまふのうらみ 葉巻と
ぬきくか今あ
人よ

いいももいいもも化化粧粧てて除除夜夜のの仕仕舞舞 羅傘

冬、春承を

黒黒茶茶浅浅きき小小はは心心なりなり年年のの暮暮 今

ゆゆ年年也也予予らら名名のの咳咳拂拂 端月

かか、、尻尻よよ万万歳歳承承せせてて葉葉巻巻 若月

大山

元旦饗

むすひ昆布

山井

弱緑青霞と紅縁やむすひ昆布

ほん 俵

体は量片半ぬきひてやん俵 芙蓉

栢

歯固ふ何うにかやとるまう 寸香

裏白

裏白やも鶴の羽振の一銭き 一虫

串柿

く持や蓬束を信む指の叙 如藍

襟

ゆたう葉れ徳をあききう 唯 可憐

梅干

もと今乾きやきふう 梅干 一壺

かちん

かちんやわんしと歯の自慢 零干

枕

枕也す事ふ春餅の秋ゆと 一水

歳暮

かちん海老ぬりまう 熟や年の平 一水

歳旦

如竹

初元や宵更あまのいふ事始

山杏の足越しや衣之太夫夜

よりよんぬ雑煮小豆や花昆布

年内春

枯木きたり竹折しと今年の梅

雪も寂小豆の日やし斗の丸

西義農

獨吟

松凡言

阿什

子日くく家元の伸と始々

春こく教や梅もくれあ

其のききふし出なけの出ち

し斗尾

佛名不降くねるや経深き

阿什

義農岩村

正朝

禊口

初春や去年の梅の袖とあ

曲端を吹く娘とあ玉

耳珠の厚い僧きハ

二

むりくりと書か初日の大和僧名

奇人の方いしく黙感

梅咲寂に草薺を寝好歌

三

年立チぬ浮世小曲ノの初枕

岫桂

香ハ袋ハ不屠藕ノのハ香 独子

雪ハ不諸ハ乳成就ノの振マて 禪口

早且

蓬萊ハ也ハ見ルも一夜ハの竹生嶋 独子

〇言

わけハの言ハ深クもハいハらハ岫桂

四ハみハ系ハ鶺鴒ハ也ハ也ハ年ハのハ口ハ禪口

行ハ年ハ也ハ口ハ鼻ハ又ハ鞭ハうハ火ハ吹ハ竹ハ 独子

美濃中津川

聖節

可来軒

吟濤

彼娘ハの衣ハ下ハ目ハ也ハもハ夜

子ハさハやハもハはハ丸ハのハ慶ハ也ハ群 合志

街ハ及ハとハりハまハにハ栴ハの花ハ咲ハて 岫憐

二

開樂樓

合志

ハハ松ハ也ハ八ハ千ハ代ハ也ハ雪ハのハ諸ハ白ハ髪

山ハ石ハほハとハはハうハんハさハらハはハ若ハ解 岫憐

雪ハ小ハ并ハつハれハ時ハひハもハ亦 吟濤

三

岫憐

鷄ハのハ太ハ靴ハ小ハ睡ハはハ初ハ月ハ外

人ハハハ白ハきハくハ若ハのハ正ハ月 吟濤

世ハハハまハあハりハ山ハけハてハ春 合志

あぢく

三元

入向

元月きまやせや破の虫のり

まよ下人々同座夢り川 水月

清しく風の柳の枝大やふ小観

二

小観

ちかみのやふ保るる意衣始

冬も禁も年徳の声入向

葉るの鏡乃蝶も死りて水月

三

水月

若多小星もわらやかくらり也

指合くくぬ親子もふふ小観

古鞆或新鞆とぬる春はて 入向

元旦

和當

子もしし弁るふの心巳春

冬ハカ天小むらや破る弓 白藤

白くしの様小耳の垢を赤し 如潮

二

コニハ 如潮

去年唄く齒固志るるおハ何

初日かやく一家千軒 和當

東風ハハ戸々あふらぬ秘事 白藤

三

徳内付 白藤

何方うらまの奴も也梅の花

云家のの義を字ぬ家 如潮

凍解る個ノ諸もの嬉刺小 和當

青帝

漢石

若みや子侍をな庵を桶等ッ

花やうらまきくる身退の口 柳翠

抱ひやうり所も小路も同奈 要花

要花

うら白や門神柳の折鶴帽子

具長の餅ハ先ッ大宿夜 漢石

等々小鳥の中ハ位を侍て 柳翠

三

柳翠

社社子矣し流るる若葉は頂

きく、一こる場と好む奈初 要花

と采さハ他國の海乃底かて 漢石

鶴明

社系の子烈と

葛の尾の杖をり辰や月の始 雪容

未

元天定何ガ祈候以て年のた 小現

国月の劫もたれや也の巻入白

昔季ハ子ヤもて持ハ氣冬ハ 水月

湯豆腐や行を流して年忘 如潮

とりのた大踏踊もみかハ 漢石

七ミ脚持うさすつし年ハれ 要花

餅摘やめハ白も居膳ハ 柳翠

雪舞や埃も侍てハの暮 白藤

と年波や舞ハ象の口ぬらん 雪容

し年一夜下り階子の丸つ自 和當

養儂下麻生

云舞獨吟

尋星

一以て子多妻やちかれ春

消寐膏寐の是れ正有

兵法も長閑なる世へ息て

歳末

くうれ隅小目取持つ 日

下中功老

し年長表

怒風

まげきよ除夜の嵐れ棚也

舞ふし年をりも八船漕 巴辭

目如くも舞盤をいにてきて 豆花

舌乃短いや小鳴あり 松角

高世も他人も恒を結とて我 静

早稲て寺ハは免のは合 冨

け月小陽をあはしう酒あは 角

勝と相撲を題ふ一折 各

首尾

五角

茶の淡乃浮せふ酔也 誦歌

寺のよみ今日に吹過る雲 素六

二里百に添て居る馬は川出て 七辭

時多すよ橋浩の鶏 豆蒼

金箔の吸おぬれ 傍乃月 木

着袴咲のよし男也 角

蓮の實此とて佛壇の傍を誓 蒼

雷とのも時ふたきん 静

分別の外道走のふ小灯燈 角

さふくらちん 懐の本 六

月夜の忘ふ入目のこら快端 静

秋よにいぞ 春の野も又 蒼

一折

巴辭

ちんちん出る各師老の懐白

難ををえに腰の瓢箪 桃里

何と名の雨やう庭は川みと 榎椏

切て書本を貝桶の蓋 李角

言の刀 磨 枕牙の隣ちんちん 朝山

ちんちん 覗いては 鉦鈴 執筆

あゝ家の家行で柳幸の女房を

ぎんぎん 敷法師 達子 歌

浅間川の煙々金の長ぎやん

言傳拾て至ては時

其の夜乃闇のあやふし力ま

捨乃柳のさきざれま

里人の向くを語りおほり出

下あまははね乾中うね

梓うにすりてえさる荒道柄

借るあまの神みまば

え日のそよハ二十六ヶ國

えも大ねどらね徒梅

首尾

健明

夕夜や兒手柏乃大晦

世見小保人の夜歩行 豆花

鶯の去似をまをのめで 巴静

二日酔いとん残力あつ 是轉

迷栗う柿をるはは枝も又 玄角

瓢ふねくらのを相談 雀詞

男風吹福原のきまこ鳥 周允
 旅者の題と細る紅毛 杵鳴
 兼と病の夢自奴ふちりく 山朴
 路の塔いろ子弁春の賦 一守
 各月をさるる丘の夕月夜 左鯉
 あれハ重踏のほぐ令 執筆

享保四年

山崎

初稿

山崎一子

二二

原稿

鶴鶴

東風

人

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

とて

二蝶

防里をりあしきしけし門子門

むめえん 流しこりこり 流し 流し

かたきまや 何とま八まゝ 流し 流し

流し

巴

くろくろ久物と吸い 流し

りもと流し 流し 流し

之舞は流し豆腐乃能み屋のて 流し

とて

巴

しおろし みの流し子や 流し

隣 流し 流し 流し 流し 流し

降 流し 流し 流し 流し 流し

とて

巴

やせぬく 流し 流し 流し

流し 流し 流し 流し 流し

流し 流し 流し 流し 流し

とて

巴

流し 流し 流し 流し 流し

流し 流し 流し 流し 流し

山 流し 流し 流し 流し 流し

とて

巴

流し 流し 流し 流し 流し

流し 流し 流し 流し 流し

流し 流し 流し 流し 流し

口。まやふくの松、まよの春、銀女
の心、ゆくとん、情やい、修、ゆせ、出、隠、利

岸水尾頭

星家 三寺
山崎川

南野 松野里 兼平 三原 文

あまの山 四時

ふら局

相、ゆ、ま、ほ、一、ゆ、や、ま、一、白、み

の、ゆ、隠、と、白、ま、さ、く、く、代、葉、ま、ま

海、は、ま、や、竹、不、吟、鐘、の、松、め、方、松、方

便、ぬ、や、世、信、一、く、り、り、白、の、ほ、め、ゆ

み、く、み、ぬ、ま、ま、ま、ま、や、ま、の、松、二、葉

ま、の、ま、や、大、崎、ま、り、ま、ま、ま、山、松、方

ま、ま、み、み、み、み、み、み、み、み、み、み、み、み

ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま

ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま

ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま

ま、ま、ま、ま

ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま

ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま

ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま

松、松

ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま

ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま

ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま

ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま

ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま

ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま

かみかみのいしあふらぐやうのさ 一は

一瓢ののち一執つもの也

新川のものはものよりさまたけりしむ 徳を

かみかみ

徳を

世のものはものよりさまたけりしむ

あまのまぬのちと町のさき也

かみかみ

大さやれちうらち 徳みち かみかみ

かみかみ

正のまのまのちとものち一は徳

降とさやちのちとものち一は徳

うらちのちとものち一は徳

享保四己亥年

歳旦 武明事

白井廣吉

同 け梨木香紙いさだちのち

とち乃柄

同

子代若ふちと此井高の

重晴

あふち

京寺所通二条上町

誹謗第一物所并筒屋庄兵衛板

